

男子部

この2年間の取組みについて

男子部部长 佐藤史伸

2020年度は新型コロナウイルスの感染予防のために、殆ど学校に集えなかった。翌21年は少しずつ学校に生徒が通えるようになり、22年度はウィルスの変異の経過や感染状況を見つつ、教師はガイドラインを基本に生徒の安全を考え、生徒の希望も聞きながら、学校生活をデザインした。

2021年度は、2020年度ほどではなかったとはいえ、やはりまだできないことが多かった。特に対面で集まるのが難しく、そのような中でも少しでもつながりを大切にできるようと、上級生を中心にZoomを使ったレクリエーションや対話の会を実施した。

2022年度は徐々に対面での学校生活ができるようになり、それでも国内の感染状況は予断を許さない時期も多かったため、感染予防をしながらどのように生徒自身の希望がかなえられるかを試行錯誤した年だった。たとえば体操会は、有観客での開催をリーダーが希望し、それを実現できるように、生徒自身が方法を考えた。そして事前に本番を想定したシミュレーションを行った。正門から入ったお客様がどうすれば混乱なく会場へたどり着き、ソーシャルディスタンスを保ちながら座っていただけるか。全学生徒がお客様の役となってシミュレーションをした。その結果、保護者のみであったが有観客での開催ができた。

また、22年度は遠足も再開した。しかし、当時の中等科3年生は、コロナ禍で入学した学年であり、中等科1、2年度の遠足は経験していない。遠足だけではなく、日常の礼拝や食事なども全員が集まっての経験がない学年だった。そのため、準備段階からわからないことは上級生に聞くなどして工夫を重ね、1泊2日の遠足を無事行うことができた。上級生も協力的で、中高一貫の教育が活かされた部分でもあったと思う。

コロナ感染予防対策については、学内のガイドラインに沿って進めてきた。生徒たちが「こうしたい」という思いがある際(前述の有観客での体操会など)には、健康管理室と国立感染症研究所の菅原民枝さんにアドバイスをいただきながら検討し、実行する際にはまずガイドラインを改訂してから、という手順を必ず踏むようにした。それは説明責任の面からも重要と考えた。

私は2021年度から16年ぶりに男子部所属となったが、男子部がとても穏やかになったと感じた。上級生が高圧的でなく、下級生の話を丁寧に聞いている。一人ひとり違っていていい、その違いを認めながらお互いに気持ちよく生活するためにはどうしたらいいかを高等科3年を中心に考えられるようになってきている。

■中等科・高等科の生活について

【本鈴・授業】

2021年度のカリキュラム改革に伴い、本鈴の時間は同年4月よりそれまでの7時50分から8時に変更した。1時間目は課題ベースのオンラインで、学校に集う本鈴は9時10分とした。HR、礼拝後、9時45分から2時間目を対面で行った。

2022年度は、8時に学校で本鈴とし、1時間目から対面での授業とした。

【礼拝】

2021年度は各教室へZoom配信とした。司会者は自宅や教師室から配信、またそれが出来ない時は、事前に録画した動画を流した。

2022年度も途中までは21年度と同様の方法をとったが、生徒の希望もあり、2学期頃からホールに全員が集まるようになった。マスク着用で讃美歌は黙読とした。

【食事】

2021年度は、各学年半数ずつがホールと教室に分かれて食事をした。一方向を向いて黙食とした。

2022年度も前年度を踏襲した。

【寮生活】

2021年度は、前年度と同様に部屋ではマスクを外せるようにしたため、室員がコロナに感染したら他の室員全員が濃厚接触者となることに変わりはなかった。1部屋の人数は4人を基本とした(元は8人部屋)。

入寮の優先順位は教師主導で以下のように決めた。

1. 新入生: 希望者が寮生活をできる期間を、入学から2期終了時(6月下旬)までと設定した。通学生も含め、希望者はこの期間に寮生活を送れるようにした。
2. 3期以降は上の学年から希望者が入寮できるようにした。希望者が収容可能人数を超えた場合は相談の上、入寮者を決めた。

2022年度は、学校の1時間目から対面授業になり、遠方の生徒は通学が大変になるケースもあったため、寮生の定員を1部屋5~6人に増やしていった。部屋で感染者が出た場合は室員全員が濃厚接触者となるのは前年度と同様だった。濃厚接触者は自宅に帰ることを保護者にも了解していただいた。

部屋で感染者が出た場合、濃厚接触者の中で発症する人がどのくらいの人数になるかは2021、22年度共にデータをとっていたが、当初はそれほど多くはなかった。2022年度の2学期まではその傾向が続いたが、2学期最後の1週間くらいは寮で爆発的に感染者が増えたため、寮を早く閉め、学校閉鎖とした(欠席者は当時100人以上)。

行動調査・濃厚接触者の特定、家庭への連絡は教師室で行ったが、担任は授業もあるため、基本的には管理職が実施し、どうしてもまわらないときは担任にもお願いした。